

# 令和6年度第4回埼玉県バーチャルユースセンター

## 運営検討会議 次第

日時 令和6年12月23日（月）

15:00～17:00

会場 オンライン

### 1 開会

### 2 挨拶

### 3 議事

（1）埼玉県バーチャルユースセンター試行状況報告について

（2）埼玉県バーチャルユースセンターの課題整理について

### 4 閉会

◆ 埼玉県バーチャルユースセンター運営検討会議委員名簿

No.	氏名	備考
1	阿部 雄介	大日本印刷株式会社 コンテンツ・XRコミュニケーション本部XRコミュニケーション事業開発ユニット ビジネス推進部企画第2グループ
2	青山 鉄兵	文教大学・准教授
3	さいたまん吉	埼玉県広報アンバサダー
4	篠谷 瞳	さいたま市総合教育相談室主席指導主事
5	東海林 智之	上尾市子ども家庭総合支援センター主査
6	ブローハン 聡	一般社団法人コンパスナビ 事務局長・支援事業部 部長代理
7	堀田 香織	埼玉大学・教授
8	綿貫 能理子	毛呂山町福祉課副課長

# 埼玉県バーチャルユースセンター 試行状況報告

2024.12.23 第4回運営検討会議

認定NPO法人さいたまユースサポートネット



# 10月活動実績

開室日時	実施プログラム(実施時間)	利用者数
10月 1日(火) 10:00~14:00	VYCを探検しよう！(13:00~13:45)	0名
10月 3日(木) 10:00~14:00	VYCを探検しよう<操作方法デモ>(10:00~10:45)	5名(男:2名、女:3名)
10月 8日(火) 10:00~14:00	VYCを探検しよう！(10:00~10:45) トークカフェ(13:00~13:45)	7名(男:5名、女:2名)
10月11日(金) 13:00~17:00	VYCを探検しよう！<小学生デモ>(16:00~17:00)	15名(男:7名、女:8名)
10月15日(火) 10:00~14:00	トークカフェ(13:00~13:50)	2名(男:2名、女:0名)
10月16日(水) 10:00~11:00	VYCを探検しよう！<狭山市教委操作方法デモ> (10:00~11:00)	6名(男:2名、女:4名)
10月17日(木) 10:00~14:00	哲学カフェ(13:30~14:30)	9名(男:4名、女:5名)
10月22日(火) 12:00~16:00	バーチャル県民SHOW(14:00~15:30)	2名(男:2名、女:0名)
10月25日(金) 13:00~17:00	宝探し(小学生コラボ会)(15:00~17:00)	43名
10月29日(火) 10:00~14:00	トークカフェ(13:00~13:45)	10名(男:4名、女:6名)

10月利用者(述べ人数)	10月登録者数
99名	21名

# 11月活動実績

開室日時	実施プログラム(実施時間)	利用者数
11月 1日(金) 13:00~17:00	LGBTQ基礎知識セミナー(14:00-15:00)	6名(男:4名、女:2名)
11月 5日(火) 10:00~14:00	健康教室(10:30-12:00)	6名(男:3名、女:3名)
11月 6日(水) 13:30~14:30	学びの場デモ(13:30~14:30)	4名(男:2名、女:2名)
11月 8日(金) 13:00~17:00	表現コミュニケーションWS(10:30-12:00)	1名(男:0名、女:1名)
11月12日(火) 10:00~14:00	表現コミュニケーションWS(13:30-13:30)	2名(男:1名、女:1名)
11月15日(金) 13:00~17:00	県立ふじみ野高校デモ(13:30-13:30)	16名(男:10名、女6名)
11月19日(火) 10:00~14:00	こころの話・からだの話(11:00-11:30)	6名(男:5名、女:1名)
11月22日(金) 13:00~17:00	表現&哲学対話のmix Ver.(13:00-14:00)	0名(男:0名、女:0名)
11月24日(日) 13:00~17:00	★こどもの居場所フェア埼玉(12:00-16:00)	50名
11月26日(火) 10:00~14:00	表現&哲学対話のmix Ver.(13:00-14:00)	5名(男:3名、女:2名)
11月29日(火) 13:00~17:00	推し本紹介しよう!(15:00-16:00)	6名(男:3名、女:3名)

11月利用者(述べ人数)	11月登録者数
102名	16名

# 12月活動実績

開室日時	実施プログラム(実施時間)	利用者数
12月 3日(火) 10:00~14:00	①学習プログラム(10:30-11:30) ②ポレポレ広場(13:00-14:00)	①②0名(男:0名、女:0名)
12月 6日(金) 9:00~17:00	①加須市教育支援センターデモ(10:05-11:05) ②プログラミング教室「スクラッチやろう」(13:30-14:30) ※Zoom ③トークカフェ(16:00-17:00)	①7名(男:1名、女:6名) ②1名(男:1名、女:0名) ③1名(男:1名、女:0名)
12月10日(火) 10:00~14:00	①学習プログラム(10:30-11:30) ②ポレポレ広場(13:30-14:00)	①②0名(男:0名、女:0名)
12月13日(金) 14:00~18:00	①見沼の生き物を知ろう!(14:00-15:00) ②トークカフェ(16:00-17:00)	①3名(男:2名、女:1名) ②1名(男:1名、女:0名)

12月利用者(述べ人数)	12月登録者数
13名	9名
利用者累計	登録者累計
214名	46名

※12月13日時点

# その他、活動実績

## ◆広報活動

### 実績

- デモ活動(県立ふじみ野高校、加須市教育センター)
- イベントへの参加(11/24こどもの居場所フェア、12/20つながるSAITAMAフェスタ)
- つながりのある中学・高校、地域団体等にチラシ配布
- さいたま市見沼区ふれあいフェア(区民祭り)にてチラシ配布
- 県民の日に県庁の「バーチャル埼玉」コーナーにてチラシ配布
- 一般社団法人彩の国子ども・若者支援ネットワーク(アスポート)チラシ配布
- HP相談予約エリア追加

# 利用登録者数

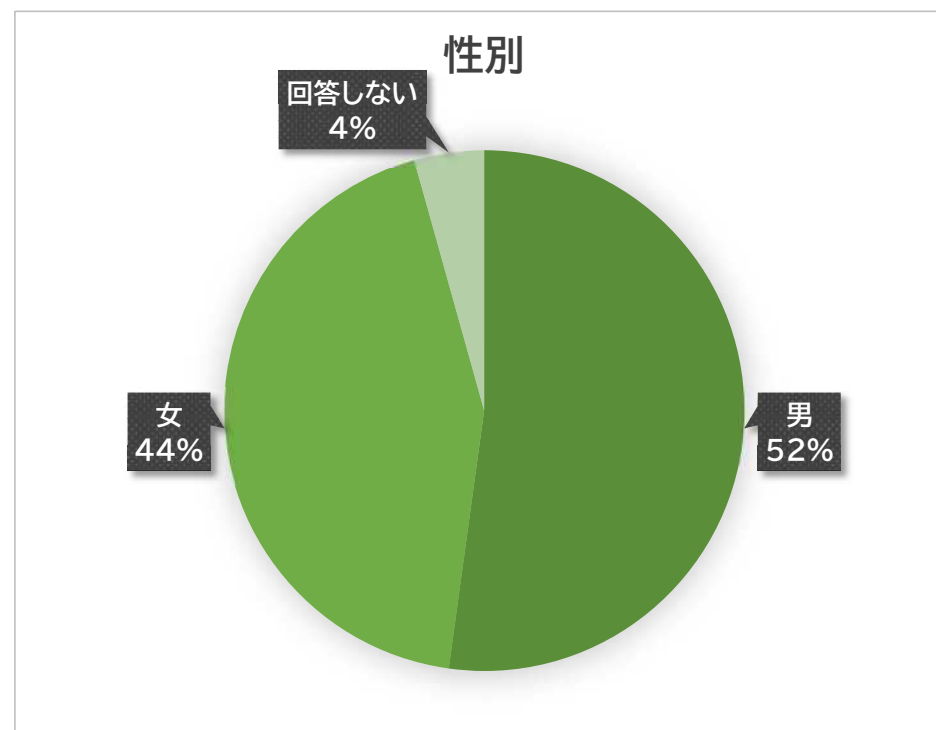
	利用者(延べ人数)	登録者
10月	99名	21名
11月	102名	16名
12月	13名	9名

利用者累計	登録者累計
214名(12/13時点)	46名(12/13時点)



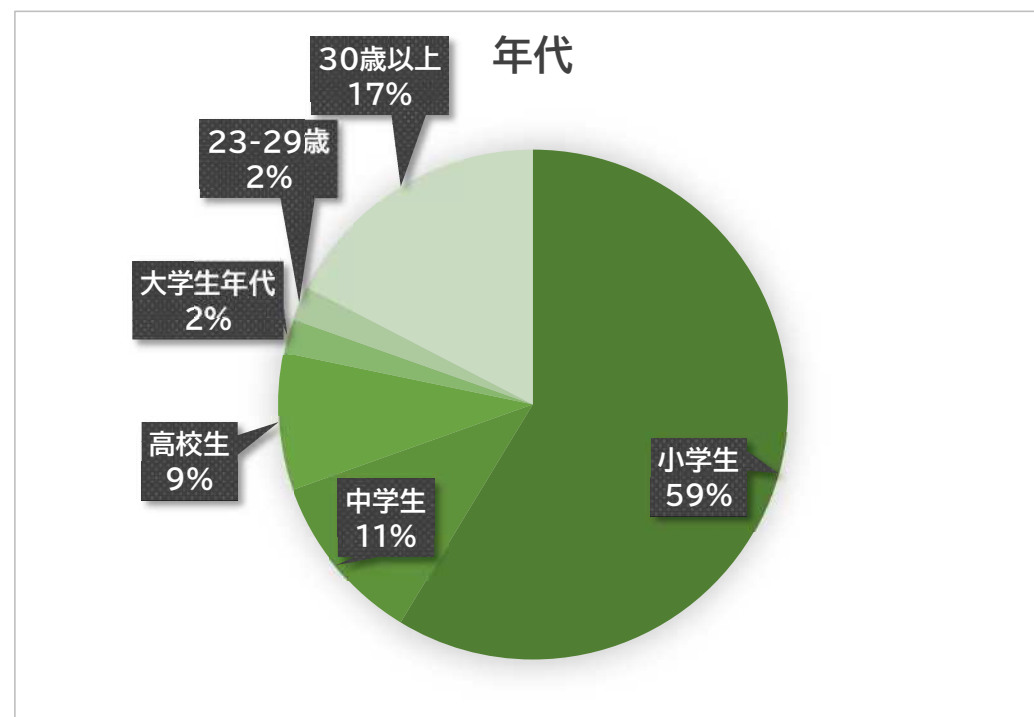
# 利用登録者の傾向

性別	男	24
	女	20
	回答しない	2



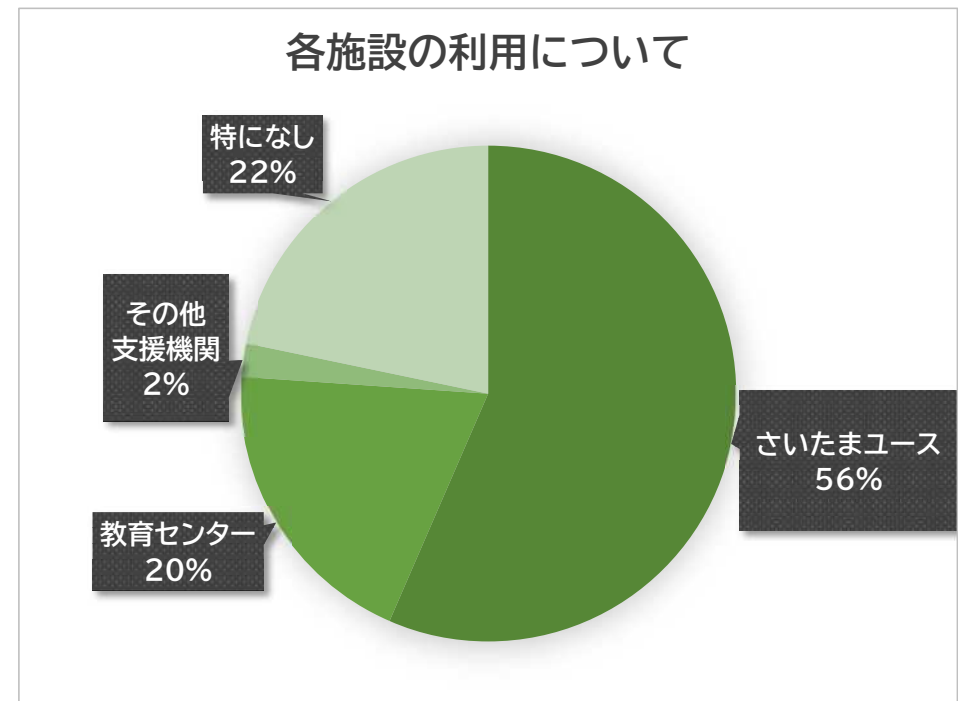
# 利用登録者の傾向

年代	小学生	27
	中学生	5
	高校生	4
	大学生年代	1
	23-29歳	1
	30歳以上	8



# 利用登録者の傾向

各施設	さいたまユース	26
	教育センター	9
	その他支援機関	1
	特になし	10



# 参加者の声(10月)

感想	意見・要望など
<ul style="list-style-type: none"><li>• 楽しい。</li><li>• 顔を出さなくていいのが良い。</li><li>• チャットでのやり取りは抵抗感が少ないと思う。</li><li>• 対面での交流のほうが好み。</li></ul>	<ul style="list-style-type: none"><li>• 不登校の子ども(小5)の保護者より、「居場所のない時間にオンラインで参加できる場所があることがありがたい」。</li><li>• アバターを自由に作成できるようにしてほしい。</li><li>• (バーチャル埼玉内で)季節ごとのイベントがあると楽しい。</li><li>• 土日や夜の時間など、施設が開いていない時間に利用したい。</li><li>• ログ機能があると良い(誰がどの時間にいたかわかるように)</li><li>• チャットに「いいね!」などのリアクションがあると良い。</li><li>• リアルタイムで文章を考えるのが苦手なので、テーマトーク以外で、ゆるっと気軽に雑談したい。</li></ul>

※アンケートは、デモ及びプログラムを実施した下記施設にて、参加した小学生・10代～20代の若者に直接聞き取りとアンケート記入により収集。

- さいたま市若者自立支援ルーム
- 上尾市子ども若者自立支援ルームここから
- 子ども第三の居場所あそぼっくすほりさき
- 就労支援はたチカプログラム

# 参加者の声(11月～12月)

感想・興味を持ったきっかけ	意見・要望など
<ul style="list-style-type: none"><li>• (デモに参加した小学生) 遠くから画面を見たら、よく知っているゲームに似てたから参加した。アドベンチャーエリアでみんなと一緒に遊んだのが楽しかった。(バーチャル埼玉の中で)また会う約束をしたので登録してみたい。</li><li>• (小学生の子どもと一緒にデモを体験した保護者) 自分の住んでいる自治体にもオンライン上の不登校支援センターはあるのだが、少し学校っぽいので子どもにはなじまない。もっとゆるやかな居場所みたいなものがないかと思い参加してみました。</li><li>• (30代) ひきこもり支援機関につながっているが、他の人と一緒に参加するリアルプログラムはまだ無理があるので、自分のペースで参加できそうなバーチャルユースセンターに興味を持った。</li></ul>	<ul style="list-style-type: none"><li>• (プログラムに参加した小学生) 見るだけじゃなくて体験コーナーがほしい。蔵造りブースエリアでコバトンコインを集めるのは楽しかった。もっと面白いと知名度が上がると思う。</li><li>• (20代) 仮想空間上でオンライン配信できるのは画期的だと感じた。しかし配信画面の画質が悪いのが気になった。</li><li>• (20代) キャラクターで他者との差別化ができず、誰が誰なのか見分けがつきにくい。髪型や髪色、メガネ等のアクセサリや服などは変更できると個性が出せる。またアバターのリアクションや他のアバターの様子が分かりにくい。</li></ul>

※イベントでのデモ及びプログラムを実施した下記施設にて、参加者や問合せがあった方より直接聞き取りにより収集。  
さいたま市若者自立支援ルーム／上尾市子ども若者自立支援ルームここから／子ども第三の居場所あそぼくすほりさき／就労支援はたチカプログラム

# 参加者の声を受けて(10月)

- 基本は『利用登録⇒参加』という流れではあるが、居場所を必要とする子どもや若者は安心できる場と感じられて初めて参加・活動することができるため、『お試し参加⇒利用登録』という流れも必要だと考える。
- VYC開始段階ということもあり、利用者からの感想としてアプリの仕様に関する要望事項も多かった。今後プログラムに関する要望や、やりたいことなどをアンケートやプログラム後の交流時間を活用し聞き取っていきたい。
- さいたまユースの各事業プログラムに参加している子ども・若者や、ご協力いただいた狭山市教委の適応指導教室「茶レンジルームひだまり」の出席生徒はすでに、リアルな居場所に参加することができる。その上で、もうひとつの居場所としてVYCを周知し、利用拡大に努める。
- 一方で、各支援機関につながってはいても自宅等にこもりがちだったり、電話でしか連絡が取れないといった層も一定程度おり、VYCがそうした人たちの「居場所」となれるよう、各支援機関と連携して積極的にアプローチしていく必要がある。
- さいたまユースでは、リアル居場所への来所が少ない利用者に対して、なじみのスタッフを通して一斉メールなどでVYCを紹介している。今後、直接電話する等の個別対応も検討する。

# 参加者の声を受けて(11月～12月)

- プログラムに関しては「楽しかった」という声も多いが、参加者が少人数の日もある。今後、ターゲットを明確にしたプログラムを打ち出すなど周知方法を工夫していく。引き続き、プログラムに関する要望ややりたいことを聞き取っていく。
- 保護者の方や支援機関につながっている方の中で、自分のペースで参加できることを期待して、バーチャルユースセンターに興味を持ってくれた方がいた。そのニーズに応えられるようなプログラムを検討していく。

## 埼玉県バーチャルユースセンターの課題整理について【10～12月】

### 1 埼玉県バーチャルユースセンター基本事項

場所	バーチャル埼玉 相談エリア グループワークルーム(車座/教室形式)
アバター	11種類(埼玉特産品イメージ7、ビジネスパーソン4)
機能	テキストチャット(オープン/プライベート) ※管理者によるON/OFF可 ボイスチャット(オープン/プライベート) ※管理者によるON/OFF可 リアクション(17種類) カスタムパネル(画面共有、動画再生)

### 2 運営状況(令和6年12月時点)


開室時間	毎週火・金曜日 1日4時間
運営内容	《交流・体験事業》 講師による30分～1時間のプログラムを1日2回実施 プログラム実施以外の時間はスタッフが待機し、フリー対応 例：テーマトーク、好きな本の紹介、学習支援 等 * 主にファシリテーターがボイスチャット、利用者はテキストチャットを使用  《相談事業》 バーチャルユースセンターHPから事前予約を受け、個別相談
安全確認	・ニックネームを事前登録 ・プライベートチャット機能を不可 ・不適切な言動があった場合、スタッフによりキック(強制退室)を行う
登録フロー	① バーチャルユースセンターHPから登録申請 ② 電話等による本人確認を行う (義務教育年齢の場合、保護者確認を行う) ③ 必要に応じて操作説明、開室スケジュールの提供 ④ 利用開始
利用者	10月から「主に支援機関利用者」 ・さいたまユースサポートネット自主事業利用者 ・市町村教育支援センター利用者(2市、他2市が1月に試験利用予定) ・その他 1月から「一般利用者」に徐々に利用対象を拡大
周知状況	・さいたまユースサポートネット自主事業利用者への周知 ・市町村教育支援センターに試験利用の個別依頼 ・県内市町村青少年行政主管課あて周知依頼 ・関係団体あて個別周知(アスポート等) ・イベント展示ブース出展(こどもの居場所フェア、県庁オープンデー 等)



### 3 仮説と検証状況

※サンプル数は少ないため、検証結果も仮のもの。  
 ※仮説は運営前に想定していたもの。

	仮説	検証結果 ※暫定的
仮説①	子ども・若者にバーチャルの居場所があれば利用があるのではないかな。	<p><b>リアルに居場所のある人の活用が継続しない。</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>リアルな居場所事業利用者、教育支援センター利用者、高等学校の校内居場所カフェ等に対してデモ及び周知を行っているが、利用登録や再度の利用に結び付いていない。</li> <li>(リアルに居場所がある人は、様々な悩みごとを抱えているにしても、リアルな相談者や橋渡し役(ユースワーカー)が求められているのかもしれない。)</li> <li>一部の保護者から、子どもも塾等で忙しいため、バーチャル空間で遊ぶ時間を捻出することは難しいのではないかと意見あり。</li> <li>(バーチャル空間でのコミュニケーションは、リアルのように場の雰囲気等がないため、バーチャル空間で過ごすこと自体を目的に入室する者はあまりいないのではないかな。)</li> <li>(リアルに居場所のある人が、わざわざバーチャル空間に登録・アクセスして交流することのハードルの高さもある。)</li> </ul>
仮説②	不登校・引きこもり等においてニーズがあるのではないかな。	<p><b>一定のニーズがあると推察される。</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>少ないながら、不登校・引きこもり等の子どもの親から相談があった。</li> <li>支援機関従事者から、不登校・引きこもり等へのアプローチとして有効ではないかという話が多くあった。</li> </ul>
仮説③	バーチャル空間でコミュニケーションをとれたら楽しいのではないかな。	<p><b>楽しみ方は属性によって違いがあるため、プログラム内容は属性に応じた内容を検討していく必要がある。</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>バーチャル空間内でのコミュニケーションは一定の不便さ(相手の感情が読み取れない、自由な自己表現ができない等)があるため、リアルと同等のコミュニケーションをとることは難しい。</li> <li>(バーチャル空間を目新しさで楽しむ者が多いが、2回目以降定着させていくためにはニーズに合ったプログラムが必要。)</li> <li>年齢層のほか、個人個人の嗜好によって楽しみ方が違う。</li> </ul>
仮説④	子ども・若者にバーチャルの匿名性が有効ではないかな。	<p><b>匿名性の有効性は一定程度求められている。</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>アンケートにおいて、バーチャル空間の匿名性を有効と捉えている者が多い。</li> </ul>
仮説⑤	バーチャル空間であれば、誰でも気軽に入れるのではないかな。	<p><b>誰でも気軽に参加できる環境整備にはハードルが高い。</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>行政の運営する居場所には安全性を求める声が多い。</li> <li>使用にあたっては、自分の端末や安定した通信環境を有することが求められる。</li> <li>開室スケジュールの事前確認、相談にあたっては事前予約が必要等、一定の不便さがある。</li> </ul>
仮説⑥	バーチャル空間であれば県内全域から利用があるのではないかな。	<p><b>県内各地での利用は進んでいる。</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>更に支援団体の少ない地域での検証を進める必要がある。</li> <li>各地の参加者をつなぐような利用を進める必要がある。</li> </ul>

	●今後の方向性
	・安全性を一定担保した上で、利用者の更なる利便性の向上を図り、「誰でも気軽に」利用できる環境整備に取り組む。
	・ニーズがあると推察されるリアルに居場所がない(あるけども居場所と感じられない)層へのアプローチの強化。
	・個別のプログラムごとに「主な対象」をより明確にし、プログラムごとの定着を確認し、ニーズを掴む。

※引き続き潜在的にニーズを模索していく中で、「定着していく層」が「バーチャル空間の居場所」を求める層と考えられる。

※リアルな居場所づくりも定着までに時間がかかるため、求める層を見定め、地道に活動を続けていくことが必要。(さいたまユース意見)

4 個別の検証状況

	検証状況	今後の方向性
機能面	<ul style="list-style-type: none"> <li>●データが重く、動作安定性は通信環境の影響が大きい。</li> <li>●アバターから細かな感情を読み取れないため、場の空気を察することは困難。</li> <li>●利便性の高いXR/CLLOUDアプリを利用者にダウンロードさせることは難しい。</li> <li>●基本的に機能面の拡張・改修は時間を要する(もしくはできない)ため、利用者から機能面の意見をいただいても反映させることは難しい。</li> </ul>	<p>○システム所管課と連携し、与えられた機能の中で検討していく。</p>
運営内容 (交流・体験)	<ul style="list-style-type: none"> <li>●テキストチャットとボイスチャットの利用が混在した場合、入力に時間を要するテキストチャット利用者が進行についていけなくなる。</li> <li>●コミュニケーションの過程において、アバターは何らかアウトプットをしないと動きがないため、テキスト入力をしているのかどうか等、リアルな状況を把握することができない。</li> <li>●ボイスチャットの利用を望まない利用者もいる。</li> <li>●機能的に出来ることも限られているため、自由度の高いプログラムの実施は困難。(例:学習支援において、宿題内容の共有等に課題)</li> <li>●現状の日程(火・金曜の日中)では、学校にいる子が参加できない。</li> <li>●利用者はプログラム参加を目的に入室するため、プログラム以外の時間帯に利用者がかかることはほぼない。</li> <li>●1日2回のプログラムがあっても、利用者は1プログラムしか参加しないため、機会損失が大きい。</li> </ul>	<p>○プログラムの内容に応じて、テキストチャットの回、ボイスチャットの回を分ける。</p> <p>○プログラムの内容に応じて、テキストチャットの場合、入力する時間を定めて一斉に発信させる等、一定のルールを設ける。</p> <p>○メタバース空間を利用しつつより魅力的なコンテンツ創出に挑戦していくため、外部ツール(例:ZOOM)との連携を図る。</p> <p>→プログラムの内容に応じて、集合及び解散時はVVC集合とし、プログラム実施自体は外部ツールを活用する。</p> <p>○より多くの人に参加していただくため、時間帯及び回数を変更する。(例:1日4時間×2日を、1日2時間×4日にする等、時間帯はプログラムのターゲット層等に併せて調整・検討をしていく。)</p> <p>○匿名性を生かしたプログラム(健康・性、悩み、意見発表等)や保護者のニーズがあると推察される学習プログラム(宿題、プログラミング等)、利用者の意見を反映したプログラムの実施。</p>
運営内容 (相談)	<ul style="list-style-type: none"> <li>●相談実績はない。</li> <li>●類似の相談事業が既に実施されている。</li> </ul>	<p>○バーチャルユースセンターの利用者数と相関関係があると思われるため、まずは交流部屋の利用者を増やしていく。</p>
安全確認	<ul style="list-style-type: none"> <li>●現状、問題は生じていない。</li> <li>●プライベートチャット機能(個人同士のチャットのやりとり)を不可とすることで、なりすまし等による被害は想定されない。</li> </ul>	<p>○バーチャルユースセンター内で一定の安全性が担保されていることを前提とし、利用者確保の取組を推進するため、登録内容は統計分析及び連絡先確認を目的とし、電話等による個別の本人確認を不要とする。</p> <p>○義務教育年齢の場合、保護者チェック欄を設けるとともに、保護者の登録も希望に応じて可とする。</p> <p>○登録申請者の希望に応じて事前面談を行う。</p> <p>(その他)</p> <p>○長時間の利用を避けるため、プログラム終了後、全員退室を徹底する。</p> <p>○一度要件を緩和した場合、その後、引き締め直すことは困難である。特に、個別の連絡を取り合うプライベートチャット機能の是非が直結するが、①現運用の中で使用するタイミングがない、②若干わかりにくく使いにくいことから、原則使用しない方向で問題ないとする。</p>
登録フロー	<ul style="list-style-type: none"> <li>●現状、問題は生じていない。</li> <li>●個別確認については、申請人数が少ないため対応できているが、申請人数が多くなった場合に対応できるか課題。</li> <li>●個別連絡を行った際に、保護者から子どもの状況について聞き取ることができた場合があった。</li> <li>●本人確認の手続きを経るため、申請者負担及び利用までのタイムラグが生じる。</li> </ul>	<p>○HPPの充実化を図る。操作説明の動画の掲載、開室スケジュールを掲載する等し、周知対象者が情報にアクセスしやすい環境を整備する。</p> <p>○プログラムの充実化を図り、プログラムをキーとした広報の実施に努める。</p> <p>○今後は、ネット利用者に対するYouTubeを利用した周知、支援機関利用者でもリアル活動への参加が少ない方たちへの周知に拡大していく。</p>
利用者	<ul style="list-style-type: none"> <li>●デモ実施にあたって、事前準備に時間を要する。</li> <li>●チラシの配布で実際の利用に結び付いていない。</li> <li>●デモを行ってもリピーターに繋がらない傾向がある。</li> <li>●周知内容(バーチャルの居場所)が漠然としているため、周知対象者の利用参加への動機付けに繋がっていない印象がある。</li> </ul>	<p>○HPPの充実化を図る。操作説明の動画の掲載、開室スケジュールを掲載する等し、周知対象者が情報にアクセスしやすい環境を整備する。</p> <p>○プログラムの充実化を図り、プログラムをキーとした広報の実施に努める。</p> <p>○今後は、ネット利用者に対するYouTubeを利用した周知、支援機関利用者でもリアル活動への参加が少ない方たちへの周知に拡大していく。</p>

\*参考:バーチャル埼玉他類似事業

若者自立支援センター埼玉
働くことに悩みがある若者向けに、相談、セミナー、交流会等を実施。
困難を抱える女性の相談
悩みや不安を抱える女性を対象に、個別相談を実施。
性的マイノリティ相談
性的志向(好きになる性別)や性自認(自分の性別の認識)に関する相談を実施。

第2～3回埼玉県バーチャルユースセンター運営検討会議・結果概要

回	区分	委員	事務局	対応状況	
②	質問	交流部屋は、対象年齢で部屋を分ける、年齢を分けない、どちらを主として運営するのか。	年齢を分けた方が的確なプログラムを提供できる一方、異年齢が集まることの良さもある。 試行の中で検討する。	-	-
②	質問	Discordを活用するにあたって留意する点として何を考えているのか。不適切な発言がなされる可能性がある。	(受託事業者) 運用ルールをこども達に働きかける。 ワード登録を行い、不適切な発言があった場合、運営側にアラート通知が届く設定をする。そして、発言をしたこどもに対してケアやサポートをしていく。 なお、Discordはツールの一つの案であり、実際に活用するかどうかは今後、検討を行う。	-	-
②	質問	Discordを活用する場合、スタッフがいない時間においてもこども達だけのやりとりが発生するものか。	(受託事業者) こども同士のやりとりが発生することも想定している。 最初は事前登録したこども達だけの運用となるため、運営側がある程度各個人の把握はできる。 テキストチャットの履歴は残るため、運営が定期的に確認する運用が考えられる。	-	-
②	質問	Discordでの相談時間を設けるのか。	(受託事業者) 運営と直接会話が出来る時間帯はあらかじめ示す必要があるが、今後、検討を行う。	-	-
②	意見	バーチャルユースセンターとDiscordの棲み分けを整理することが課題。 ヨーロッパではDiscordがオンラインユースワークやデジタルユースワークの主戦場となっている。Discordだけで完結できる部分があるが、一方で、アバターを介したバーチャルユースセンターならではの良さもあると考える。それぞれの利点を踏まえ、どう活用していくのか、どうあるべきかを意識して議論していけると良い。	(受託事業者) バーチャルユースセンターの補完的な役割としてDiscordを活用することを考えている。 今後、検討を行う。	Discordの活用方法について、引き続き検討を行う。	
②	質問	夜の時間帯に対するニーズがあると思われるが、その対応はどのように考えているのか。	(受託事業者) 夜の時間にニーズがあるだろうということは理解しているが、昼間の時間帯で生活リズムを整えられた方がよいという考えもある。また、あまりに遅い時間では生活リズムが崩れる可能性もある。 試行の中で検討する。	-	-
②	質問	協力小中学校に対する広報はどのように考えているのか。	協力小中学校に対して、一斉にチラシ等を配布することを想定している。	-	-
②	質問	1月になると、すべての小学校から大学に一般公開するのか。	試行の中で検討する。	-	-
②	意見	連絡先の登録について、通常の小中学生はメールアドレス等はあまり持っていないと思われる。 また、未成年は保護者の連絡先を登録することとなると、居場所感を下げる要因となり、必要なニーズ(こども)に届かないリスクになる。	-	義務教育年齢の者については、保護者の同意を求めるとし、連絡先は保護者のものとする。 ただし、支援機関等利用者は支援機関等による代理登録を認めることとする。	済

回	区分	委員	事務局	対応状況	
②	意見	保護者の連絡先を求めることは義務教育かそうではないかで分けてもよいのではないか。中学生までは保護者の連絡先を求め、高校生からは任意とする運用も考えられる。 また、保護者の同意が得にくい場合においては、例えば学校の先生や、施設の施設長、ケースワーカーといった親以外の選択肢を認める等、柔軟な対応が必要と思われる。	-	義務教育年齢の者については、保護者の同意を求めるとし、連絡先は保護者のものとする。 ただし、支援機関等利用者は支援機関等による代理登録を認めることとする。	済
②	意見	本人や家族と連絡をとるために、登録時にメールアドレスや電話番号を求めることが必要であることは理解できる。	-	登録時にメールアドレス及び電話番号を求めることとする。	済
②	意見	メインターゲットをどこに設けるか議論が必要。 ユニバーサルかターゲットか。試行当初はターゲットを絞って始めることは了解しているところであるが、将来的にどの層をメインターゲットに据えるかによって運営のルールも変わってくる。 ただ、真に居場所が必要であることも達に利用したいと思ってもらえるよう、形式上はユニバーサルとして敷居を下げ、実際のメインターゲットは別に据えるという考え方もある。 試行期間中はターゲットを絞り、支援を要することもだけに絞ることも考えられる。	-	委員意見を踏まえ、試行の中でニーズを検証し、利用者層の拡大にあたっては慎重に検討を行う。	
②	意見	試行期間の間は、ずっと支援を必要としている子ども達だけを対象とするということも考えられる。	-	委員意見を踏まえ、試行の中で検討を行う。	
②	意見	ユニバーサルの部屋とターゲットを絞った部屋、両方を用意し、行き来できるようにすることも考えられる。	-	委員意見を踏まえ、試行の中で検討を行う。	
②	質問	プライベートテキストチャットで別のサイトのURLや連絡先の交換等が行われる可能性があるが、対応する方法はあるか。	制限する機能はないため、運用ルールの中を定め、対応・指導していく必要がある。	11月14日にプライベートテキストチャットを制限する機能が実装された。バーチャルユースセンターにおいては当面の間、プライベートテキストチャット機能は原則禁止の設定とする。	済
②	意見	不適切な発言等をしてキック(強制退室)された子どもに対してケアの方法を考えておくことが必要。	登録時に連絡先を確認し、ケアに努める。	ケアを行う旨、マニュアルに追記。	済
②	意見	利用者間のプライベートテキストチャットは早い段階で認められていくものという印象。	試行の中で検討する。	委員意見を踏まえ、試行の中で検討を行う。	
②	意見	入室にあたって、なりすましを防ぐために合言葉等によりきちんと本人確認をしてから入室させるということも考えられるが、一方で、利用のしやすさを優先させるという考え方もある。どの方法が適切かについては試行の中で検討していただきたい。	試行の中で検討する。	合言葉での入室確認は事務的に支障が生じるため、ニックネームによる確認とする。	済
②	意見	今後、バーチャルユースセンターの活動が教育課程上の学校外の活動としてカウントされることも考えられる。	-	試行において協力市町村、教育支援センターと協議する。	
③	質問	お試しで参加した者も登録をしているのか。	お試し参加の者は登録していない。	-	-
③	質問	学習プログラムはどこで行う予定か。	(文部科学省)オープンテラスの使用を考えている。例えば鍵付き相談ブースのスクリーンを使用することも検討している。 そこで学生ボランティア等がテキストチャット中心で教えるイメージで考えている。	-	-
③	意見	同じ場を共有していることの強みを活かすためには、テキストチャットよりもボイスチャットの方が大事ではないか。	試行の中で検討する。	委員の意見を踏まえ、試行の中で検討を行う。	
③	質問	身分証明の確認を緩和するということだが、具体的にどのような方法か。	支援機関に在籍確認を行うことで本人の身元確認ができた整理したい。	-	-

回	区分	委員	事務局	対応状況	
③	意見	どこにも在籍していない、中学校にも高校にも在籍していないような人に対する登録方法を検討していただきたい。	-	試行期間当初においては、登録時にオリエンテーションを実施し、本人確認を行う。	
③	意見	入室にあたっては、システムで本人確認できた方が心理的安全性が高い。	バーチャル埼玉の機能としては実装されていないが、担当課所に要望として伝えている。	担当課所に対し要望を伝えていく。	
③	質問	利用拡大の状況は。	教育支援センターは調整中。 そのほか、市町村に対して協力の通知を発出しており、協力の相談があれば適宜対応していく。	-	-
③	質問	実際に運営している委託事業者の意見として伺いたい。この事業は、何に向いているのか。 バーチャル埼玉をどう使うかということから始まっており、何かニーズがあって始まっているものではないという難しさを感じている。 その中で、匿名のライン相談やリアルな居場所づくり等も進んでいる中、どんな強みがあると感じているのか。	(受託事業者) 行政が運営しているという信頼性があり、こどもや若者の安全なバーチャルな居場所が提供できるという点に可能性があると感じている。	-	-
③	意見	こどもや若者の安全なバーチャルな居場所が提供できるという点に強みがあるのであれば、そういったニーズに尖らせた拡充の仕方等を進めていくべきではないか。	-	委員の意見を踏まえ、試行の中で検討を行う。	
③	質問	登録している人はどのような人か。	(委託事業者) 現在の傾向としては面白そうな場所として興味を持った人が登録している割合が大きい。 ただ、中には学校に行かないという選択をしている人や、その時のコンディションでリアルな現場に來れないような人もいる。 (県) 支援が行き届かない層への掘り起こしも検討していきたい。	-	-
③	意見	オンラインの交流からオフ会に繋げていくことのハードルは高い。 間にいるキーパーソンがとても重要になると思う。	試行の中で検討する。	委員の意見を踏まえ、試行の中で検討を行う。	
③	意見	登録にあたっての性別確認については、男女及び男女に該当しないという3択でよいのではないか。 もしくは任意入力でもよいのではないか。	-	男女及び回答しないという3択で項目を設定する。	済
③	意見	性別の配慮については、当事者本人たちから意見を聞いた方がよいのではないか。	試行の中で検討する。	委員の意見を踏まえ、試行の中で検討を行う。	
③	質問	アンケートは記名式か、無記名式か。 記名式の場合、書きやすさは下がる等の良し悪しはある。	利用者向けは無記名式、支援機関向けは記名式を検討している。	-	-
③	意見	何のプログラムに参加したか把握した方がよいのではないか。	-	適宜行う質問項目の見直しの中で検討を行う。	
③	意見	フェイスシートにあたる部分は質問した方がよいのではないか。	-	フェイスシートにあたる部分の質問項目を追加する。	済
③	意見	質問をする目的に併せて質問項目を設定すべき。	-	適宜行う質問項目の見直しの中で検討を行う。	
③	質問	アンケートの配布方法はどのように考えているのか。	フォームに入力してもらう方法と小学校低学年向けに聞き取る方法を検討している。	-	-
③	意見	アンケートは回答する側の負担や時間的な制約がある。例えば小学生には小学生向けのより簡易なアンケートがあってもよいのではないか。	検討を行う。	小学生向けのアンケートの作成を検討する。	

## 埼玉県バーチャルユースセンターに関するアンケート

Q 1 あなたの年代を教えてください。

- 小学生年代       中学生年代       高校生年代  
 18 歳以上

Q 2 あなたの性別を教えてください。

- 男       女       回答しない

Q 3 バーチャル空間でアバターになってバーチャルユースセンターに参加したことについて、あなたの考えに近いものを1つ選んでください。

- とてもよかった       まあよかった       あまりよくなかった  
 よくなかった

(「とてもよかった」「まあよかった」を選んだ方にお聞きします。)

よかった理由は何ですか。あてはまるものをすべて選んでください。

- アバターにより顔を見せる必要がないため、気軽に参加できたから。  
 名前を言わずに参加できたから。  
 外出するのは苦手だから。  
 その他 ( )

Q 4 バーチャル空間の良い点はどのような点だと思いますか。

あてはまるものをすべて選んでください。

- アバターにより顔を見せる必要がないため、気軽に参加できること。  
 名前を言わずに参加できること。  
 外出をしなくても参加できること。  
 性別に関わらず参加しやすいこと。  
 その他 ( )

Q5 バーチャルユースセンターに参加しやすい曜日や時間帯、回数について、あてはまるものをすべて選んでください。

- |     |                                  |                                  |                                  |                              |                            |                            |                            |
|-----|----------------------------------|----------------------------------|----------------------------------|------------------------------|----------------------------|----------------------------|----------------------------|
| 曜日  | <input type="checkbox"/> 月       | <input type="checkbox"/> 火       | <input type="checkbox"/> 水       | <input type="checkbox"/> 木   | <input type="checkbox"/> 金 | <input type="checkbox"/> 土 | <input type="checkbox"/> 日 |
| 時間帯 | <input type="checkbox"/> 10時~12時 | <input type="checkbox"/> 13時~17時 | <input type="checkbox"/> 18時~21時 |                              |                            |                            |                            |
| 回数  | <input type="checkbox"/> 週1回     | <input type="checkbox"/> 週2回     | <input type="checkbox"/> 週3回     | <input type="checkbox"/> 週4回 |                            |                            |                            |
|     | <input type="checkbox"/> 週5回     | <input type="checkbox"/> 週6回     | <input type="checkbox"/> 週7回     |                              |                            |                            |                            |

Q6 実施してほしい交流・体験プログラムを1つ選んでください。  
また、その理由を教えてください。

- |                                      |                                |                                      |                             |
|--------------------------------------|--------------------------------|--------------------------------------|-----------------------------|
| <input type="checkbox"/> 共通のテーマで話し合い | <input type="checkbox"/> 動画の視聴 | <input type="checkbox"/> 自分の好きなものの紹介 |                             |
| <input type="checkbox"/> ゲストの講演を聞く   | <input type="checkbox"/> ゲーム   | <input type="checkbox"/> 音楽を聴く       | <input type="checkbox"/> 勉強 |
| <input type="checkbox"/> その他（        | ）                              |                                      |                             |

Q7 若者どうしの交流・体験プログラムに参加する際、お互いの顔が見える対面型と、お互いアバターで参加するバーチャル型のどちらかを選べる場合、あなたが参加したい方を選んでください。また、その理由を教えてください。

- |   |
|---|
| <input type="checkbox"/> お互いの顔が見える対面での交流・体験 |
| <input type="checkbox"/> お互いアバターで参加する交流・体験  |

その選択肢を選んだ理由を教えてください。

(バーチャルユースセンターで相談を利用した方のみお答えください。)

Q 8 あなたが悩みごとを相談する場合、どのような相談方法なら利用したいですか。  
あなたが利用したい方法をすべて選んで○をつけ、その理由を教えてください。

- お互いの顔が見える対面型の相談
- お互いアバターで参加するバーチャル相談
- メールによる相談
- チャット（ボイスチャット含む）による相談
- 電話による相談

その選択肢を選んだ理由を教えてください。

Q 9 バーチャル空間であれば、人に相談しにくいことも相談しやすいと思いますか。  
あなたの考えに近いものを1つ選んでください。

- そう思う
- 少し思う
- あまり思わない
- 思わない

(全員がお答えください。)

Q10 バーチャルユースセンターを家（普段寝起きをしている場所）や学校（授業や部活、クラブ活動）以外の「ここに居てもいい」という居場所と感じたか、あなたの考えに近いものを1つ選んでください。

- 感じた
- 少し感じた
- あまり感じられなかった
- 感じなかった

(アンケートは以上となります。ご協力ありがとうございました。)